

にかほ市
学校環境適正化基本計画
(抄)

児童生徒数等の最新データに置き換え
(令和7年4月1日現在)

令和6年4月

にかほ市教育委員会

(令和7年4月1日現在)

4 小・中学校の現在の規模 (令和5年5月1日現在)

【小学校】

	1年		2年		3年		4年		5年		6年		計	
	児童数	学級数												
平沢	44 49	2	32 52	2	49 44	2	52 41	2	45 38	1	41 55	2	263 279	11
院内	11 19	1	12 15	1	20 14	1	15 21	1	14 22	1	20 1	1	92 111	6
金浦	20 23	1	18 22	1	21 24	1	22 24	1	24 1	1	22 27	1	127 144	6
象潟	40 62	2	43 51	2	59 65	2	51 47	2	62 73	2	45 62	2	300 360	12
計	115 153	6	105 140	6	149 147	6	140 133	6	145 157	5	128 164	6	782 894	35

小学校4校のうち、平沢、象潟の2校では、現在のところほぼ2学級の複数学級を維持しています。一方、院内、金浦の2校では全学年1学級でクラス替えができない状況となっています。

【中学校】

	1年		2年		3年		計	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
仁賀保	56 80	2 3	71 66	2	77 67	2	204 213	6 7
金浦	24 25	1	27 21	1	24 30	1	75 76	3
象潟	71 70	2	62 64	2	71 64	2	204 198	6
計	151 175	5 6	160 151	5	172 161	5	483 487	15 16

中学校3校のうち、仁賀保、象潟の2校では2学級の複数学級を維持しています。金浦では全学年1学級でクラス替えができない状況となっています。技能教科の先生を配置できない学校があるなど、小規模を解消する必要性が生じています。

5 今後の1年生の数

(令和7年4月1日現在)

【小学校】

—(令和6年4月1日現在)—

	令和6年 2024		令和7年 2025		令和8年 2026		令和9年 2027		令和10年 2028		令和11年 2029		令和12年 2030	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
平沢	33	1	44	2	44 45	2	35	1	28	1	31 30	1	32 30	1
院内	11	1	11	1	6 5	1	12 11	1	12 13	1	5 6	1	8	1
金浦	18	1	20 17	1	11 12	1	15 14	1	15 16	1	13 12	1	8 7	1
象潟	43	2	40 45	2	39 38	2	36 33	1	31	1	32 30	1	30 32	1
計	105	5	115 117	6	100	6	98 93	4	86 88	4	81 78	4	78 77	4

○院内と金浦は全学年で1学級となっていて児童数の大きな増加は見込めない状況です。平沢、象潟も徐々に1学年1学級となっていく見込みで、令和9年以降はすべての小学校で1学年1学級となる可能性が高くなっています。複式学級の可能性も生じています。

〈参考〉 複式学級 (2個学年) 小学校 16人 (1年生を含む場合 8人) 中学校 8人

(令和7年4月1日現在)

【中学校】

—(令和6年4月1日現在)—

	令和6年 2024		令和7年 2025		令和8年 2026		令和9年 2027		令和10年 2028		令和11年 2029		令和12年 2030	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
仁賀保	72	2	56 61	2	61 62	2	59 58	2	67	2	69	2	44	2
金浦	27	1	24	1	22	1	24	1	22 21	1	21	1	18	1
象潟	61	2	71 73	2	45 46	2	62 63	2	51 49	2	59 61	2	43	2
計	160	5	151 158	5	128 130	5	145	5	140 137	5	149 151	5	105	5

	令和13年 2031		令和14年 2032		令和15年 2033		令和16年 2034		令和17年 2035	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
仁賀保	55	2	50	2	46	2	40 41	2	36	1
金浦	20 17	1	11 12	1	15 14	1	15 16	1	13 12	1
象潟	40 45	2	39 38	1	36 33	1	31	1	32 30	1
計	115 117	5	100	4	97 93	4	86 88	4	81 78	3

○金浦は全学年で1学級となっていて生徒数の大きな増加は見込めない状況です。令和14年以降は象潟、仁賀保も1学年1学級となる可能性が高くなっています。中学校では教員の配置や部活動等、学校運営に影響が生じています。

5 適正化の基本方針

学校環境の適正化（適正規模・適正配置）に向け、計画を進めるにあたっては、にかほ市学校環境適正化検討委員会の提言を受け、次に掲げる事項を基本方針として取り組んでいくこととします。

- 適正化の実施にあたっては、よりよい教育環境を子どもたちに提供することを最優先とし、長期的な見通しをもって行います。
- 複式学級は、学習活動が制限され多様な学習活動が難しいことや、教員の負担が大きいことなどから、可能な限り編成しないよう努めます。
- 学校は地域コミュニティの中核であることから、学校の統廃合を行う場合は、地域とのつながりの維持など配慮に努めます。
- 統廃合にあたっては、各学校の持っている風土や文化、特色ある教育活動について統合後の教育活動の中で継続されるよう配慮します。

6 適正規模についての考え方

適正規模について、小学校では学級活動やグループ活動を効果的に行うことができ、かつクラス替えが可能な学級数として各学年2学級以上とします。また、中学校ではすべての教科において専門教科の免許を有する教員の配置が見込まれる各学年3学級とします。

・適正規模に関する基準

	1学級の人数	1学年の学級数	学校の学級数	学校全体の人数
小学校	25～35人	2学級以上	12学級以上	300～420
中学校	30～40人	3学級以上	9学級以上	270～360

※学校規模適正化の基準として、上記の基準に近づけることを基本とします。

7 子どもたちの通学手段

適正化を実施することで通学距離が長くなり、徒歩や自転車での通学が困難になるケースが考えられます。そのため、公共交通機関の運行状況を見極めながら、必要に応じてスクールバスでの送迎など対応を講じる必要があります。

また、統合により通学距離や通学ルートが変わることで、交通事故の防止など子どもの安全に対して十分な手立てが必要となります。そのため、地域や関係機関との連携を密にして、地域で子どもを育て守る取組みが必要となります。